

2013 年度土壤物理学大会のご案内

シンポジウムおよびポスターセッション

日時 2013 年 10 月 26 日(土) 9:10～17:00

場所 福島大学キャンパス M 棟1階 M-2 教室

福島県福島市金谷川1 (<http://www.fukushima-u.ac.jp/new/18-koutu/>)

参加料:3000 円(講演要旨集代、ただし、学生会員は無料の予定)

エクスクーション

10 月 27 日(日) 8:30 福島駅前出発、飯舘村周辺の除染事業等の視察、16:00 福島駅帰着
費用、申込み、締切、当日スケジュール等詳細は、9 月上旬までに学会 HP に掲載します。

福島空港行きのバスは、6 月 30 日現在下記の通りです。

福島→伊丹便 19:05 発(福島駅 16:54 発のリムジン)

福島→札幌便 18:20 発(福島駅 16:23 発のリムジン)

1. 第 55 回シンポジウム テーマ: 放射性物質問題—土壤物理に求められること—

2011 年 3 月 11 日に東北地方太平洋沖で発生した地震は未曾有の大災害となった。その際に発生した電源喪失による東京電力福島第一原子力発電所の事故は、周囲に広範囲に放射性物質を撒き散らした。その結果、東北地方の土壤中にはかつて経験したことのない大量の塩分や放射性セシウムが蓄積された状態にある。福島の農地から放射性セシウムをいかにして除去するか? 2013 年は学会シンポジウムを福島市で開催し、農家や技術者などの関係者から現場の抱えている問題を土壤物理学会員が直接聞く機会を設けたい。土壤物理専門家としてできることと、できないこと、現場の方と協力できること等を相互に理解し、今後の土壤物理の放射性物質研究戦略、さらには放射性物質問題の改善・解決のヒントに繋げたい。

- 1) シンポジウム「放射性物質問題—土壤物理に求められること—」開催の趣旨
東京大学大学院農学生命科学研究科 溝口 勝(学会長)
- 2) 農地における放射性物質汚染の現状
農業環境技術研究所研究コーディネーター 谷山一郎
- 3) 土壤鉱物による放射性 Cs 固定反応)
農業環境技術研究所土壤環境研究領域 山口紀子
- 4) 放射性物質汚染農地の効率的な表土剥ぎ取り工法の開発
農村工学研究所農地基盤工学研究領域 若杉晃介、原口暢朗、
- 5) 森林における放射性セシウムの動態
森林総合研究所立地環境研究領域 小林 政広
- 6) コロイド性物質の移動に伴う Cs の移動(仮題)
東京大学大学院農学生命科学研究科 西村 拓

- 7) 総合討論 「土壌物理の放射性物質研究戦略に向けて」

2. ポスターセッション（福島大学キャンパス S 棟1階 S-14 教室）
「土壌物理研究の最前線」と「放射性物質と土壌物理」のセッションを設けます。
発表者は学会員であるものとします。
発表要旨 (A4、2 ページ(含む 200 字程度の研究紹介))の投稿は、学会ホームページ (<http://js-soilphysics.com/>) からのアップロードになる予定です。要旨は 9 月 1 日受付開始、9 月 30 日締切予定です。ポスター体裁の詳細等を含めて要項をホームページに掲載しますのでそちらを参照ください。
3. 情報交換会 (17:30～ 於福島大学生協、4000 円)
4. 学会、エクスカージョン、情報交換会、昼食弁当の申し込み、プログラム等は、8 月下旬までに詳細を学会ホームページ(<http://js-soilphysics.com/conf>)に掲載します。
5. その他
10 月 25 日(金)午後に、福島駅前コラッセふくしま5階小研修室於、農業農村工学会土壌物理部会を開催する予定です。
10 月下旬は紅葉等行楽シーズンのため、福島駅周辺の宿泊施設が混み合う場合があります。宿については早めの予約をお勧めします。
土壌物理学会は、今回の災害の回復・地域の再興の一助にすべく、平成 26 年 3 月に本シンポジウム関連の特集号を発行する予定です。大会に参加した皆様の積極的な投稿を歓迎します。

問い合わせ先

土壌物理学会事務局 西村 拓 (大会担当幹事)

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科環境地水学研究室

電話 03-5841-5351 FAX03-5841-8171

E-mail: spsecre@ml.affrc.go.jp